

2023年10月11日

国立国会図書館ビジョン2021-2025

# 国立国会図書館のデジタルシフト



国立国会図書館 電子情報部長 大場 利康



# 国立国会図書館の概要

# 国立国会図書館の概要

---

- 1948年設立
- 国会に属する唯一の国立の図書館
- 納本制度等に基づき資料・情報を収集し整理・保存
- 国会、行政・司法各部門、国民に対するサービスを実施

## ➤ 国立国会図書館法（昭和23年法律第5号）

前文「国立国会図書館は、真理がわれらを自由にするという確信に立って、憲法の誓約する日本の民主化と世界平和とに寄与することを使命として、ここに設立される。」

第2条「国立国会図書館は、図書及びその他の図書館資料を蒐集し、国会議員の職務の遂行に資するとともに、行政及び司法の各部門に対し、更に日本国民に対し、この法律に規定する図書館奉仕を提供することを目的とする。」

# 施設

※座席数は2021年度末時点の数値。



## 東京本館

国会向けのサービスや来館  
サービスを提供、3施設の統括

収蔵能力

本館書庫：450万冊

新館書庫：750万冊

閲覧スペース

18,983m<sup>2</sup> / 1,018席



## 関西館

遠隔サービスの拠点、来館  
サービスも提供

収蔵能力

本館書庫：600万冊

書庫棟：500万冊

閲覧スペース

4,265m<sup>2</sup> / 359席



## 国際子ども図書館

児童書の専門図書館

収蔵能力

レンガ棟：40万冊

アーチ棟：65万冊

閲覧スペース

2,054m<sup>2</sup> / 124席

(参考) 建物と設備 <https://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/outline/equipment.html>

国立国会図書館年報 <https://www.ndl.go.jp/jp/publication/annual/index.html>

# 主なWebサービス



## 国立国会図書館オンライン

<https://ndlonline.ndl.go.jp/>

国立国会図書館の所蔵資料の検索と利用申込のためのシステム



## 国立国会図書館サーチ

<https://iss.ndl.go.jp/>

国内の図書館、類縁機関の所蔵資料やデジタルコンテンツを検索できるシステム  
総合目録、視覚障害者等用データ送信サービス等を提供



## 国立国会図書館デジタルコレクション

<https://dl.ndl.go.jp/>

国立国会図書館で収集・保存しているデジタル資料を検索・閲覧するためのシステム  
2022年12月リニューアル

2024年1月に統合・リニューアル予定

※このほか、リサーチ・ナビ、国会会議録検索システム、WARP、レファレンス協同データベース等を提供。

(参考) Webサービス一覧 <https://www.ndl.go.jp/jp/use/service/index.html>

# 所蔵資料

※いずれも2021年度末時点の数値。

## ➤ 有体物

図書	雑誌・新聞	その他非図書資料等
約1,193万点	約1,994万点	約1,435万点

## ➤ 無体物

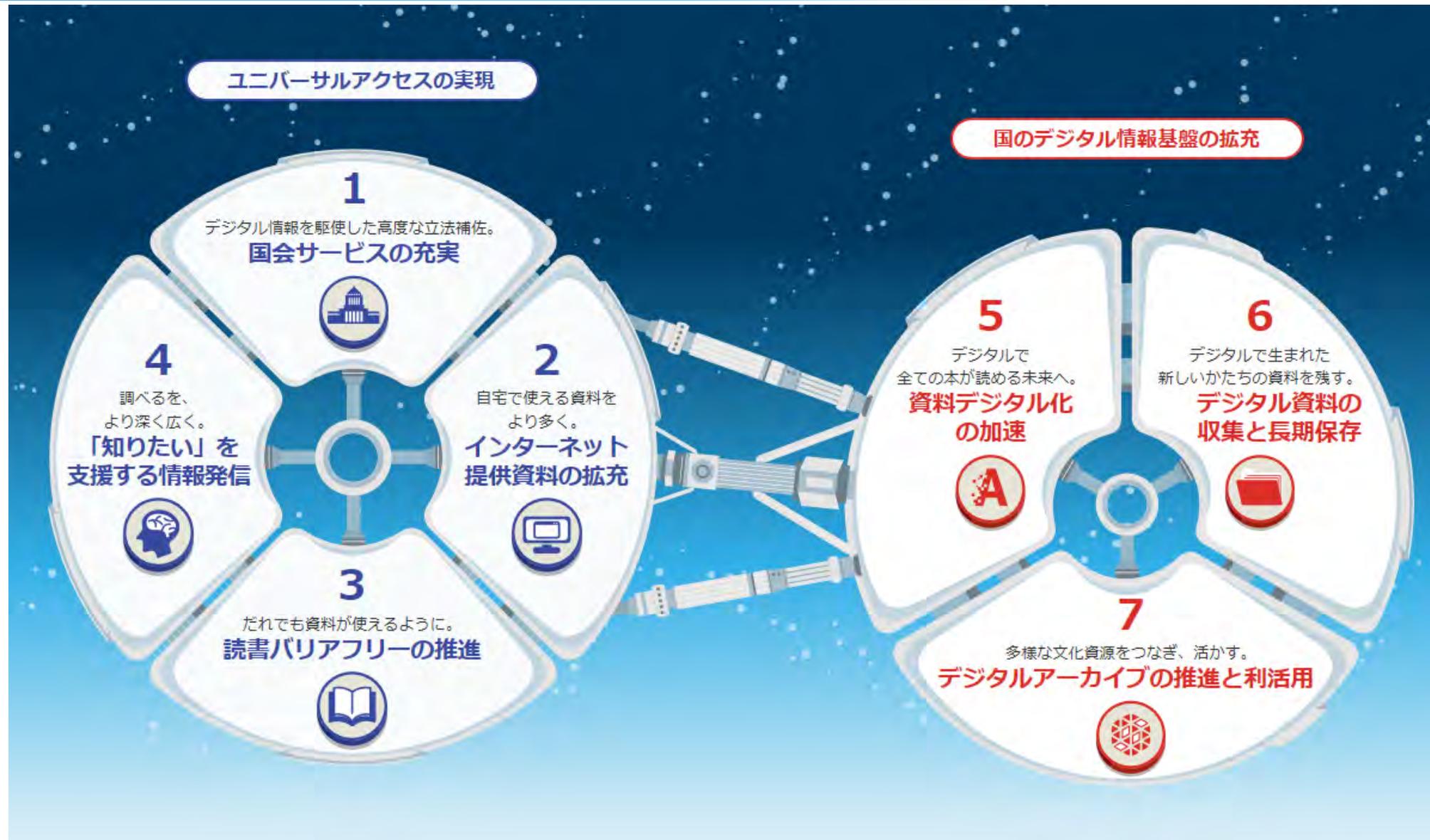
インターネット資料 (ウェブサイト)	オンライン資料 (電子書籍・電子雑誌等)
約1.4万タイトル 約22万件 (データ量約2PB)	〔民間発行〕 85.7万点 〔公的機関発行〕 54.6万点

(参考) 数字で見る国立国会図書館 <https://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/outline/numerically.html>  
国立国会図書館年報 <https://www.ndl.go.jp/jp/publication/annual/index.html>

# 国立国会図書館のビジョン

「国立国会図書館ビジョン2021-2025 -国立国会図書館のデジタルシフト-」の紹介

# 国立国会図書館ビジョン2021-2025



# ビジョン策定の背景

---

- ビジョン2021-2025の前文

情報技術によって私たちの社会活動やコミュニケーションのあり方が変容し、さらに新型コロナウイルスが大きな影響を及ぼす中で、社会のデジタルシフトが加速しようとしています。

この状況を踏まえ、国立国会図書館は、情報資源と様々な知的活動を的確につなげていくために、今後5年間を「国立国会図書館のデジタルシフト」推進期間と位置付け、7つの事業に特に重点的に取り組みます。

# ビジョン2021-2025の構成

---

## I 国立国会図書館のデジタルシフト －情報資源と知的活動をつなぐ7つの重点事業－

※5年間に特に注力する事業をピックアップ

## II 基本的役割

- 1 国会活動の補佐
- 2 資料・情報の収集・整理・保存
- 3 情報資源の利用提供
- 4 各種機関との連携協力

※事業の全体を4つの領域に整理

# 7つの重点事業①

---

## ▶ ユニバーサルアクセスの実現

### 1. 国会サービスの充実

量的・質的に拡充したデジタル情報基盤と利便性を向上させた検索手段を用いて、さらに充実した国会サービスの提供を図ります。

### 2. インターネット提供資料の拡充

インターネットや身近な図書館で閲覧できるデジタル資料の拡充を図ります。そのための著作権処理や関係者との合意形成を進めます。

### 3. 読書バリアフリーの推進

視覚障害等の理由で読書に困難がある利用者向けに、バリアフリー対応の資料の収集・検索・提供サービスと、利用しやすいテキストデータの製作支援を推進します。

### 4. 「知りたい」を支援する情報発信

専門知識を活かして膨大な資料・情報をキュレーションし、効率的な調べ方のガイドや、知識を深めるための資料の紹介等、社会に役立つ情報を発信します。

# 7つの重点事業②

---

## ➤ 国のデジタル情報基盤の拡充

### 5. 資料デジタル化の加速

デジタルで全ての国内出版物が読める未来を目指し、この5年間で100万冊以上の所蔵資料をデジタル化します。テキスト化も行い、検索や機械学習に活かせる基盤データとします。

### 6. デジタル資料の収集と長期保存

有償の電子書籍・電子雑誌の制度収集を開始し、著作者や出版者の協力を得て、安定的収集を実現します。また、他機関のデジタル資料の収集・移管、再生困難なデジタル資料の形式変換等、多面的な取組によってデジタル資料の長期保存を目指します。

### 7. デジタルアーカイブの推進と利活用

図書館の領域を超えて幅広い分野のデジタルアーカイブを連携させる「ジャパンサーチ」を通じて、多様な情報・データがオープン化され、活用が促進される環境づくりを支えます。

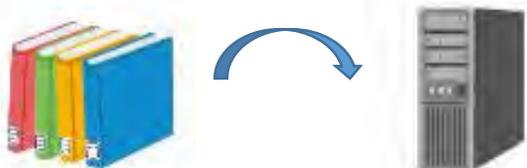
# 資料デジタル化：提供状況（2023年8月現在）

資料種別	インターネット 公開資料	図書館・個人送信 対象資料	NDL館内 提供資料	合計	年代・概要
図書	36万点	85万点	39万点	160万点	明治期以降、1987年までに整理された 図書等
雑誌	2万点	82万点	53万点	136万点	国内刊行雑誌のうち、劣化した雑誌や学 術雑誌等 (刊行後5年以上経過したもの)
古典籍	8万点	2万点	-	9万点	貴重書・準貴重書、江戸期以前の和漢書 等
博士論文	1万点	14万点	2万点	17万点	1988～2000年度に国内の大学から送付 を受けた学位論文
新聞	-	-	8万点	8万点	明治期以降に発行された新聞のうち、資 料保存のためにデジタル化したもの等
録音・映像 関係資料	-	-	1万点	1万点	カセットテープ、ソノシート、レーザー ディスク、脚本、手稿譜等
その他	12万点	2万点	10万点	23万点	官報、憲政資料、地図、プランゲ文庫、 日本占領関係資料、歴史的音源等
合計	<b>60万点</b>	<b>184万点</b>	<b>112万点</b>	<b>356万点</b>	

(参考) デジタル化資料提供状況 <https://www.ndl.go.jp/jp/preservation/digitization/index.html#situation>

# 図書館向け・個人向けデジタル化資料送信サービスイメージ

国立国会図書館



所蔵資料のデジタル化

館内限定公開  
約112万点

インターネット公開・送信サービスの要件に合致しないもの

インターネット公開  
約60万点

著作権保護期間満了・  
許諾・文化庁長官裁定

図書館向け送信 (2014.1.21~)

送信サービス  
約184万点  
絶版等で入手困難なもの

- デジタル化資料のうち、所定の除外手続を経て、流通在庫がなく商業的に電子配信されていない等、一般的に購入することが難しいことが確認された絶版等資料が対象
- 漫画・絵本、商業出版雑誌等は対象外
- 現状、図書館向けと個人向けの送信対象資料は同じ

個人向け送信 (2022.5.19~)



サービス参加館として承認された公共図書館や大学図書館等に設置された特定端末から、各図書館の登録利用者が利用可能



利用規約に同意した国内居住の本登録利用者が、個人の端末から利用可能

誰でもどこでも  
利用可能



# テキスト化の推進

- 2019年1月施行の改正著作権法（第30条の4、第47条の5）により、画像データからのテキストデータ作成と所在検索サービスが実施可能に
- デジタル化資料約247万点（2020年12月時点）の画像から、OCR処理により本文のテキストデータを作成（文字認識率（図書、雑誌）は平均96.86%）
- テキスト化を継続的に行うため、OCR処理プログラム（NDLOCR）を開発、オープンソースで公開
- サービスへの活用
  - 2022年12月 国立国会図書館デジタルコレクションで全文検索用データとして利用開始
  - 2023年 3月 視覚障害者等用データ送信サービス（みなサーチ）β版で提供開始

## ▶ 約247万点の内訳

種別	内容	点数（概数）
図書	<ul style="list-style-type: none"><li>• 1968年までに受け入れた図書</li><li>• 震災・災害関係資料の一部（1969年以降受入分も含む）</li></ul>	97万点
雑誌	<ul style="list-style-type: none"><li>• 明治期以降に刊行された雑誌（刊行後5年以上経過したもの）</li></ul>	132万点
博士論文	<ul style="list-style-type: none"><li>• 1988年(一部)～2000年に送付を受けた論文</li></ul>	15万点
その他	<ul style="list-style-type: none"><li>• 官報等</li></ul>	2万点
計		247万点

※ 2021年以降にデジタル化した資料も、今後、順次テキスト化予定

# 読書バリアフリーの推進

- 視覚障害者等の方を対象として、デジタル化資料からテキスト化したデータの提供を開始（2023年3月28日～）
- 視覚障害者等用データ送信サービスに登録した視覚障害者等個人の方や同サービスの送信承認館は、国立国会図書館障害者用資料検索（愛称：みなサーチ）β版（2023年3月28日～試験公開中）から、全文テキストデータ約247万点をダウンロードして利用可能。



みなサーチβ版  
<https://mina.ndl.go.jp/>

※正式版は、2024年1月公開予定。

（参考）国立国会図書館障害者用資料検索「みなサーチ」β版にて、視覚障害者等の方がデジタル化資料の全文テキストデータを利用できるようになりました（ニュース） [https://www.ndl.go.jp/jp/news/fy2022/230328\\_01.html](https://www.ndl.go.jp/jp/news/fy2022/230328_01.html)

# 次世代に向けて：NDLラボの取組

- 次世代の図書館システムの開発に資する要素技術の実証実験を行うためのウェブサイト「NDLラボ」を運営
- 機械学習・AI技術を軸に、デジタル情報資源の利活用の可能性を探求
- 実験の成果を公開し、デジタルヒューマニティーズ等の研究でも活用可能に



NDLラボ

<https://lab.ndl.go.jp/>

## ➤ 提供中の実験サービス例

- 次世代デジタルライブラリー <https://lab.ndl.go.jp/dl/>  
全文テキスト検索や画像検索が可能なデジタルライブラリーであり、AI技術等を応用した図書館サービスの実験場。2022年度古典籍資料のOCRテキスト化実験の成果物である古典籍資料約8万点分も全文テキスト検索可能。
- NDL Ngram Viewer <https://lab.ndl.go.jp/ngramviewer/>  
OCRによって作成されたテキストデータから、出版年代ごとの単語及びフレーズ出現頻度を可視化・列挙することができるサービス。